

日本の雑誌・ホームページにおける恋愛言説の検討

相羽 美幸

(筑波大学 人間総合科学研究科)

Key words: 恋愛言説, 恋愛スキル, 言説分析

目的

現代の日本の青年は、恋愛に非常に高い価値を置いているが、すべての青年が恋愛関係を容易に構築・維持・終結しているわけではない。そのため、恋愛について悩んでいる青年をターゲットとして、本や雑誌といったメディアにおいて様々な言説が提示されている。谷本 (1998) は、若者向けの雑誌69冊を調査し、そのうち845頁が恋愛記事であることや、恋愛記事全体のうち「魅力」「アプローチ」「SEX」の記事が54.2%を占めることを明らかにし、「軋轢」「別れ・失恋」に関する記事が少ないことを指摘している。雑誌記事だけでなく、最近ではインターネットの発達により、恋愛に関するホームページも数多く存在している。

このように、恋愛スキルに関する情報は様々なメディアから提示されており、多くの青年がこれらの言説に依拠している。これらの言説を分析すれば、現代の青年の恋愛のあり方を理解する手がかりになるであろう。また、これらの言説を分析すれば、日本に特有の恋愛スキルを抽出する手がかりが得られると期待される。さらに、これらの言説の根拠は明確でなく、内容が妥当であるかどうかについて検討した研究はみられない。例えば、恋愛言説で扱われている問題状況が実際の恋愛における問題状況と一致しているか、提示されている恋愛スキルが適切なスキルであるのかについても検討する必要があると考えられる。

以上の問題意識に立って、本研究では、メディアの提示する恋愛言説の現状を把握し、恋愛スキルに関する項目作成のための手がかりを得ることを目的として、日本の雑誌・ホームページにおける恋愛言説の内容分析を行う。さらに、恋愛においては性役割が反映されやすい (谷本, 1998) ことから、性差についても検討を行う。

方法

調査対象 恋愛の特集が組まれた雑誌3冊 (男性向け:AERA, 19 (21) 女性向け:AERA, 13 (41); an・an, No.1500) と、「恋愛テク

Table1 恋愛言説のカテゴリとスキル件数

カテゴリー	件数	割合(%)	スキルの例
心構え	43	18.4	ポジティブな考えを持つ。
初対面	M 5	2.1	相手に合わせる会話をする。
合コン・カラオケ	18	7.7	好みのタイプを限定しない。
好きな子と仲良くなる方法	M 16	6.8	物の貸し借りをする。
恋人の有無確認	M 3	1.3	素直に堂々と聞く。
ライバルがいる場合	M 4	1.7	躊躇せずにアプローチしてみる。
電話・メール	21	9.0	電話番号を聞く目的を明確にする。
恋愛話術	33	14.1	自分の話はあっさりと終わらせ相手に話を振る。
デートに断られる	M 2	0.9	サラリと引くことで変に気を遣わせることを避ける。
デートの誘い方	M 11	4.7	用事の「ついで」として誘う。
デートの誘われ方	F 2	0.9	過去のイベントに対して悔やんでみせる。
実際のデート	35	15.0	露骨な優しさは何度も繰り返す。
おごり方・支払い	M 3	1.3	食事の終盤にトイレに行くついでに会計を済ます。
おごられ方・支払い	F 2	0.9	いつも感謝の気持ちをあらわす。
告白	M 7	3.0	どんな仕方でもOKしてもらえ関係を構築してから告白する。
SEX	M 5	2.1	さりげなく自分や相手の部屋に関する話題を持ちかける。
お酒・バー	M 2	0.9	一杯目はビールで二杯目以降はジン系がよい。
イベント・プレゼント	6	2.6	花束を渡してすぐ立ち去る。
授業	F 2	0.9	筆記用具は常に2個ずつ用意しておく。
合計	220	87.6	
交際			
長続きさせる方法	10	4.3	ありのままの自分を相手に見せる。
危機の脱し方	M 3	1.3	付き合う前や付き合い始めの頃を思い出す。
SEX	12	5.1	旅行に誘う。
交際中			
浮気・嘘	M 2	0.9	すべての証拠品を捨てる。
合計	27	10.8	
交際後			
交際 傷心から抜け出す方法	3	1.3	仕事に没頭する。
交際 交際 ヨリを戻す方法	F 1	0.4	キレイになってみんなに好かれるいい女になる。
合計	4	1.6	
合計	251	100.0	※Mは男性向け, Fは女性向け

ニック」で検索されアクセスランキング上位のホームページ3サイト (男性向け: スゴレン; 恋愛白書 女性向け: 恋の神様)

調査対象の発行・更新期間 2000年9月~2006年5月

調査内容 恋愛スキルに関する記述を筆者が抽出し、「交際前」「交際中」「別れ・交際後」の3段階に分類した後、下位カテゴリーに分類した。さらに、各カテゴリーにおいて提示されているスキルの内容を整理した。

結果と考察

恋愛スキルに関する記述内容を検討するために、カテゴリーごとにスキルの記述件数を算出した。恋愛言説のカテゴリーとスキル件数を Table1 に示す。言説では、交際前に関する記述がほとんどであり、交際中や別れ・交際後に含まれるカテゴリーは極端に少なくなっていた。この結果は、谷本 (1998) と一致しており、雑誌やホームページなどのメディアの違いに関係なく、言説では交際中や別れ・交際後に関する記述が極めて少ないことが明らかになった。

交際前の関係段階でスキル件数の多かったカテゴリーは、「心構え」「コミュニケーション」「デート」の3つに大別された。「心構え」に関するカテゴリーでは、「常に恋愛に対して積極的な意識を持つこと」が重要視されていた。「コミュニケーション」に関するカテゴリーには、電話・メールの仕方や恋愛話術が含まれ、「相手に合わせつつ、自分が会話の主導権を握ること」が重要視されていた。「デート」に関するカテゴリーには、デートの誘い方・誘われ方や実際のデート、おごり方・おごられ方が含まれ、「計画的に演出をすること」が重要視されていた。

性差を見ると、カテゴリーでは、男性は「積極的」、女性は「受身的」という特徴が見られた。例えば、「デートの誘い方」、「告白」は男性のみで見られ、「デートの誘われ方」、「おごられ方」は女性のみで見られた。カテゴリー内のスキルでは、男性は「積極的でストレートな行動が望ましい」とされ、一方女性は「受身的で気の利く行動が望ましい」とされていた。

また、女性向けの言説には、「相手の行動をさりげなく引き出すテクニック」が多く入っていた。これらの事実から、日本の雑誌・ホームページにおける恋愛言説においては、男女ともに伝統的な性役割に基づいた行動パターンが強調されていることが明らかにされた。

今後の課題として、現段階では分析対象が十分ではないため、分析対象を増やして調査を続ける必要がある。また、本研究の結果をもとに、実際の恋愛における問題状況や恋愛スキルと恋愛言説との相違点を検討していくことが必要である。

引用文献

谷本菜穂 (1998). 現代的恋愛の諸相 社会学評論, 49, 286-301.

(AIBA Miyuki)

謝辞: 本論文の作成にあたり、ご指導いただきました松井豊教授 (筑波大学) に深く感謝いたします。